

小学六年

国語

解答と解説

2		1	
問六	問四	問一	問一
文	ウ	社	塾
化	問五	会	を
的	1	を	サ
に	ど	生	ボ
植	んな	き	ろ
性	敵	問二	問二
善	も	対	ウ
説	2	照	問三
で	エ	性	i
は	問三	性	エ
	1	性	ii
	1	イ	イ
	2	2	iii
	エ	エ	オ
	3	3	
	ア	ア	

(配点)
 ① (問三) 各2点、(問四) 各3点、他各5点
 ② (問三) 各2点、(問八) 7点、他各5点 } 計150点
 ③④⑤ 各2点

		5		4		3								
⑥	①	①	①	①	①	①	①	問九	問八					
樹氷	経費	夏	不足	出版	親類	対等	発展	ア	動	な	方	欧		
⑦	②	②	②	②	③	④	⑤	イ	す	人	で	米		
再燃	習慣	冬	春	出版	親類	対等	発展	ウ	る	の	、	人		
⑧	③	③	④	③	④	④	⑤	エ	点	期	日	は		
仁愛	沿岸	春	春	出版	親類	対等	発展	オ	。○	待	本	自		
⑨	④	⑤	⑤	④	④	④	⑤	問十	を	人	分	の		
割	功罪	秋	秋	対等	親類	対等	発展	ウ	裏	は	の	た		
⑩	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	⑤	(完全音)	切	自	分	め		
縮	系統	系統	系統	系統	系統	系統	系統	ウ	ら	分	に	に		
65	60	55	50	51	52	53	54	48	44	45	46	47		
66	61	56	57	58	59	60	61	49	44	45	46	47		
67	62	57	58	59	60	61	62	49	44	45	46	47		
68	63	58	59	60	61	62	63	49	44	45	46	47		
69	64	59	60	61	62	63	64	49	44	45	46	47		

【解説】

1 工藤純子の『だれもみえない教室で』（講談社）から出題しました。

小学六年生になってから荒れ気味の颯斗が、同じグループの連や渉、幸太郎を巻き込んで、一週間前の小競り合い以来ぎくしやくして清也に度を越えたいはずを仕掛け、意図せずそれに関与することになった連がそのことを後悔する場面です。

問一 B1 具体化 関係づけ

颯斗が塾に行かなければならないことは他の三人も理解しています。ところが「でも、塾じゃないの？」と聞いた連に颯斗は「休む」と即答しており、渉と幸太郎は自分自身の習い事ではないもの本当に大丈夫なのだろうか、と感じて戸惑っているのです。直後に「止めなくても」とあることから、颯斗がしようとしていること、すなわち塾をズル休みしようとしていること、という内容を念頭に置いて探しましょう。——線③の九行後に「塾をサボろうとしている」という表現が見つかります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 B1 具体化 比較

——線②の後で、三人が三人とも「自分の家に集まって遊ぶのは無理だ」ということを言っています。——線②の時点ですでに三人ともがそれを言おうと思っっているもの、それを言った時の颯斗の反応を考えると、最初に口火を切る気に

はなれず、様子をうかがい合っているのです。したがって、ウが正解となります。ア「誰が説得するか、こつそり相談しよう」と、イ「議論の結末が気にかかっている」、エ「誰におしつけるのがよいか」がそれぞれ誤っています。イについては、三人とも「結末として誰の家で遊ぶことになるのか」を気にしているのではなく、とにかく「自分の家が集まる場所にならなければよい」という考えでいるということから、誤りだと判断できます。

問三 B1 関係づけ 比較

適当な副詞を空らんに入れる問題です。

i 二人は颯斗がどう反応するか気にしながら、自分の家は集まる場所にはできないということを言っています。したがって、エ「おずおずと」が当てはまります。

ii 語気を強めた颯斗に対し、渉は「なんだよ、怒るなよ」と間延びした返事をしています。これは、語気を強めた颯斗の機嫌をこれ以上悪くしたくないという気持ちの表れだと読み取れます。事実、渉はこの後で颯斗の言う通り清也のランドセルを開けています。以上のことから、イ「へらへらと」が当てはまります。

iii 直後に「重くなっていく」とあることが最大のヒントになります。いたずらと呼ぶにはあまりにきつい仕打ちを清也にしかけてしまったことで、罪悪感がのしかかっているのです。したがって、オ「ずっしり」とが当てはまります。

問四 **A2** 知識 関係つけ

語句の意味を答える問題です。必ず辞書の意味をもとにしたうえで、文章中の意味をとらえましょう。また、知らない言葉は、できるだけ例文の形で覚えるようにしましょう。

③「うるさい」は物理的に大きな音を出す(大きな音が出る)、という意味で使われることも多いですが、ここでは実際に大きな音を出しているわけではなく、「細かいところまで厳しくチェックし、口を出す」という意味で使われています。

⑥「悠然と」はゆったりとした様子を表す言葉です。会社を定年退職した後などに、自分の好きなことをして落ち着いた生活を送ることを「悠々自適(の生活)」と表現します。

問五 **B1** 理由 比較

渉は「でもさ、清也が見たら……」と発言しています。これが途切れてしまったのは、開けたうえで立たせた清也のランドセルに、颯斗がいきなり袋をひっくり返して金魚のエサを入れ始めたことに驚いたからです。したがって、エが正解となります。ア「厳しい口調をいきなり優しくした」、イ「命令に逆らえないでいる自分に気づいて」、ウ「エサの匂い」はどれもこの場面で渉が驚いた理由としては当てはまりません。

問六 **B1** 関係つけ

颯斗が今回のいたずらをどのように説明しているかを答え

る問題です。「清也も笑ってくれるよ」と言っているのを聞いた連は、直後に「いたずら？」と、今回の仕打ちがいたずらと呼べるものなのかどうかを疑問に感じています。その後清也が教室にもどり、ランドセルを背負って帰る場面で、本当のことを言わないように颯斗に体をおさえつけられながら、連はもう一度「これは本当に、いたずらなのか？ 仲直りのための？」と自問自答しています。ここから、「仲直りのため」が当てはまることがわかります。
※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問七 **B1** 関係つけ 比較

清也を追いかけてぜんぶ話そう、と決意した直後に、連が「ぜんぶ話す」とは、何を話すことなのだろう、と考えている場面です。清也の知らないこれまでの経緯をすべて話すことを意味しているはずですが、同時に「それって卑怯じゃないか？」と考えていることから、「卑怯」と言って差し支えない内容が入ることを意識して選択肢を検討しましょう。両方を満たす選択肢はウのみです。

問八 **B2** 具体化 比較

——線⑧の直前で、連は「早く追いかけてくちやという気持ち」と「清也に」会いたくないという気持ちの間でゆれ動いていました。ただ、——線⑧の前の二行で「唇をかむ」に続いて「清也だって……悪いんだ」と考えており、その後追いかけるのをやめてしまっていることから、ここで「もう追いかけない」という気持ちが固まっていることが読み取れ

ます。以上のことから、アとエが正解となります。イ「申し訳なきが少しでも軽くなるのではないか」、ウ「どうしたいと思っているのかよくわからなくなつて」、オ「やめるべきだったと後悔している」がそれぞれ誤っています。

問九 **B1** 具体化 比較

「眉をひそめる」は心配事や気がかりなこと、不快なことに対するマイナスの気持ちを表す動作です。今回は眉をひそめると同時に「おまえら？」と言っていますから、これが最大のヒントとなります。連はいつも一緒にいる清也がインフルエンザで学校を休んでいるため一人です。一人しかいないのに「おまえら」と言われたことに対して「どういうことだ？」と思つて「眉をひそめ」ているのです。したがつて、アが正解となります。イ「一人である方が気楽だった」、ウ「腹が立つ」、エ「能天気さが理解できず、あきれる」がそれぞれ誤っています。

問十 **B1** 関係づけ

抜けている文を元の場所に戻す問題です。最初に抜けている文自体からできるだけ多くの情報を見つけたうえで、それらをもとに本文をいねいに探しましょう。「そのこと」が何を指すのか、また「どろどろしたもの」が込み上げる場面とはどこか、を考えて思い当たる場所を探しましょう。情報を見つめる前にも探してみることが大切です。「そのこと」は iii の二行前「もし、オレがあんなことをされたら、笑えない」を指しており、一行前の「黒くて重いもの」は抜けている文の「どろどろしたもの」と対応してい

ます。したがつて、「ゆつくりと」の直前に戻すことになります。

2 根本博明『思考停止という病理 もはや「お任せ」の姿勢

は通用しない』（平凡社）から出題しました。

日本人の心理傾向とアメリカや中国の人々の心理傾向を對比させ、教育が人格形成にどのように関係しているのか、また日本人の「思考停止」がどのような経緯で起こっているのかを説明している文章です。

問一 **B1** 具体化 関係づけ

線①直前に「これ」という指示語があります。その指示内容は一つ前の行の「私たちは、生まれ落ちた社会の文化にふさわしい人間につくられていく」です。ただしこの部分は空らんには当てはまる形ではなく字数も合わないため、これを言い換えた部分を別の場所から探すことになります。空らんの直前に「社会が理想とする人物像を示し」とあることから、この内容を意識して言い換えの部分を探しましょう。

線②の九行後にほぼ同じ内容の文が見つかります。※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問二 **B1** 関係づけ 比較

どちらの②も、直後に「あらわれている」という動詞が続いています。また、直前を見ると「アメリカ文化と日本文化」という対比されている二つの文化が出てきています。したがつて、②には「ちがいに」にニュアンスの近い言葉

が入ると予測できます。そのまま読み進めると、別の学者の分析が紹介されており、ここでは日本文化と中国文化それぞれにおける人物像の対照性が紹介されています。以上のことから、「対照性」が正解となります。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問三

B1 関係つけ 比較

空らんにあてはまる接続詞を考える問題です。前後の内容をよく読んで関係をとらえ、接続詞そのものの働きを考え合わせてふさわしいものを選びましょう。

《1》の直前は「自己主張」というテーマで日本文化とアメリカ文化を対比し、直後では「人間関係」というテーマで日本文化とアメリカ文化を対比しています。両者を対比させるという枠組みが同じでテーマだけが変わっていることから、似たような内容を並列するイ「また」が入ります。

《2》の直前では、中国の教科書で「敵はあくまでも敵であり、うっかり同情すると痛い目に遭う」「けつして命を救おうなどとしてはならない」ということを伝えていることが示されています。直後で「尻尾を振る狼」という具体的な作品名が挙げられていることから、具体例を挙げるエ「たとえば」が入ります。

《3》の直前では、中国の教科書を読んだ日本人が起し得る否定的な反応が予想されています。これに対して直

後では、否定的な反応をするのには理由があることが示され、日本文化が大きく影響しているのだということが続きます。以上のことから、逆接のア「でも」が入ります。

問四

B1 理由 比較

アメリカで「緊張感のある人間関係」が描かれる理由は、アメリカには二つ目の②の前の行に書かれているように「人と人が対立するのは当然とみなす」文化があり、その中でいかに「自己主張」していくかを子どもたちに教えるためだと考えられます。したがって、ウが正解となります。ア「人との対立を避けようとする姿勢の短所を指摘する」、イ「強い自己主張を可能にするためには」、エ「人との対立を避けることの利点を伝える」が誤っています。イは一見良さそうに見えますが、要素自体はとらえられているものの因果関係が逆転してしまっています。

問五

1 **B1** 具体化 関係つけ

日本の教科書を中国の人々が読んだとしたら、という仮定の話は《3》の五行後から始まる段落にまとめられています。中国の人々が「甘い」と考えるのは、日本の「(無邪気に接すれば)どんな敵も悪人も好意的になつてくれる」という考え方であるということになるでしょう。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

2 **B1 具体化 比較**

中国の教科書を日本の人々が読んだとしたら、という仮定の話は《3》をふくむ段落に書かれています。この内容をふまえると、エが正解と言うことになるでしょう。ア「農夫が疑いの気持ちを持たずに蛇に接していれば」、イ「そもそも農夫は蛇に関わるべきではなかった」、ウ「同等の落ち度がある」、がそれぞれ誤っています。

問六 **B1 抽象化**

「無意識のうちに抱えている」まで傍線が引かれていることに注意しましょう。自分でもそのようなことを考えているとは特に強く意識してはいない、ということがポイントです。また、この「思い」は日本人が騙されやすいことにつながっているわけですから、同じ話題の部分を集的に探しましょう。——線⑤の十二行後に出てくる「文化的に植えつけられている心の癖」が同じものを指しています。

問七 **B1 具体化 関係づけ**

具体例は、筆者が「自分の言いたいことをより効率よく読者にわかってもらうにはこの話を紹介すれば良さそうだ」と考えたうえで出しているものです。したがって、「言いたいこと」の中心ではないから飛ばしても構わない「もの」などではなく、むしろ「この例を出すこと」によって筆者は何が伝わりやすくなると思ったのか」ということを意識してしっかり読むべき内容だと言えます。この問題での具体例は日本人の「相手を信頼すべきで疑ってはいけない」という考え方が「騙される」ことにつながっている例であり、——線⑥の九

行後に「しっかりと考えて行動する必要があるだろう」と書かれているように、日本人に理解し意識してほしいということが

を伝えるために挙げられている例だといえます。このことが簡潔にまとめられているのは、——線⑤の前の行「性善説では対応できないものごと」の部分です。

※書き抜き箇所が正解でも、誤字脱字がある場合は不正解とします。

問八 **B2 具体化 推論**

——線⑦に「そこが」という指示語があります。まずはこの指示内容をおさえましょう。勝利インタビューを受けるスポーツ選手が、自分の出した成果について「お世話になっている監督やコーチのために頑張った、恩返しができたというようなコメントをする」ことが指示内容です。これは、自分が頑張った成果を出したことよりも、周囲の人やお世話になった人から受けた期待を裏切らないですんだことをより強く意識していることの表れだといえます。一方の欧米人は「アメリカの子どもには、自分の知識が増えるなど、自分のため」という反応が多かった」とあるように「自分のため」に行動します。これらの内容を盛りこみ、欧米人と日本人の違いがわかるようにまとめましょう。

※設問の指示や字数・文字指定に従っていないものは不正解とします。ただし、誤字脱字が一つの場合は減点1点、二つある場合は減点2点、それ以上は不正解とします。また解答の説明に過不足がある場合は減点2点とします。

問九

B2 具体化 比較

——線⑧の直前に「良きにつけ悪しきにつけ」という表現があることに注意しましょう。筆者は日本文化の「思考停止」について、悪い面だけを指摘しているわけではありません。——線⑥の具体例などをもとに、騙されることやじゅうぶんな検討をせずに相手の要求を受け入れることは改善されるべきことだと指摘されていますから、イは正解であるとはわかりません。ただしそれだけではなく、「相手の意向を配慮はしりょしつつ行動する」という良い点も指摘されていますから、エも正解だといえるでしょう。他の選択肢については、ア「すぐにやめなければならぬ」、ウ「積極的にアピールしていく必要がある」、オ「日本人だけに備わった性質ではないと考えるべき」がそれぞれ誤っています。

問十

B2 抽象化 比較

本文の内容と合っている選択肢を答える問題です。本文のどの部分と対応した選択肢なのかを考え、必ず本文に戻って、選択肢の内容と照らし合わせて正誤を考えましょう。ウは(中略)前後の内容と一致いっちしています。また、ア「子どもの社会化を決定いっづけてしまう」、イ「同一視いっしてしまふ」、エ「良好な人間関係を作ることの良さを教えられない可能性が高い」は本文の内容と合っていません。

3

A1 知識

類義語を漢字になおして答える問題です。漢字一字ごとの意味も参考にして解答を考えましょう。知らなかった言葉があれば、この機会にしっかりと書いて覚えるようにしましょう。

4

A2 知識

俳句の季語を参考に季節を答える問題です。有名な俳句に出てくる風物と季節の関係をおさえておきましょう。特に、実際の生活における感覚と季節がずれるもの(七夕・すいか・朝顔/すべて秋の季語)などは注意しておきましょう。